

活躍する専門技術者に聞く⑤

かるべ まさる 苜部 勝氏（新潟原動機株式会社）



かるべ・まさる 59歳 新潟県出身

第5回は新潟原動機株式会社（東京都千代田区）に所属している苜部勝（59歳）氏を紹介する。40年以上に渡り、自家発電装置の制御盤等の設計施工・試験運転業務等に従事してこられた苜部氏より、豊富な業務経験の一端をご紹介頂いた。

1. 業務経歴

苜部さんは昭和49年に新潟県立新津工業高等学校（電気科）を卒業後、株式会社新潟鐵工所に入社し、新潟内燃機工場で電気関係の部署に配属された。「学校推薦で入社しました。入社当時は部署も細分化されていなくて、配線工事から、工場の受電設備の点検や社宅の設備管理まで電気に関するあらゆることを担当しました。」

中でも、船用エンジンの遠隔操縦装置の試験調整・保守業務を任された経験が、後の発電機の制御盤の設計施工業務に活かされた。20年以上、日本各地の

港（ドック）を飛び回った。「制御屋としての仕事の原点ですね。試験を担当して強電から弱電まで知識を幅広く得ることが出来ました。時には遠隔操縦装置の修理で出張したのにエンジン調整まで任されたこともありました。」

入社後に取得した電気主任技術者や電気施工管理技士のほか、平成6年に自家用発電設備専門技術者（S、K、M、三部門）の資格を取得し、同時に特種電気工事士の資格も取得した。それまでの施工実績が高く評価され、平成23年度に国土交通大臣顕彰による「建設マスター（機械器具設置工）」を受賞した。

2. 制御盤の設計者として

昭和56年、苜部さんが26歳の時、子会社であるニイガタ機電株式会社に出向となった。新潟鐵工所により新潟地区の電気部門を統合して設立された子会社で、プロパー社員の技術指導を担当することとなった。技術指導を行いつつ、発電設備の制御盤等の設計及びアフターサービスも含めた納品業務を行った。代表的物件として大手ビール工場のガスタービン駆動常用発電設備（4,000kW×1基）がある。

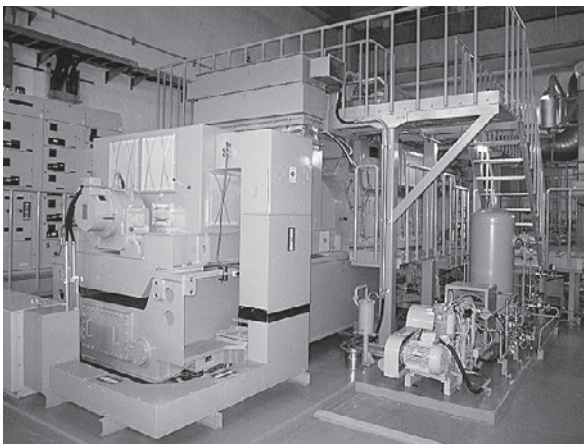
「米国ソーラー社製ガスタービンを搭載した発電設備でしたが、制御内容については米国ソーラーの英文解説書を読んで理解したものでした。」

ニイガタ機電時代は海外出張も多く、アジア・中東を中心に10数か国に滞在した。遠く南アフリカのケープタウンまで船用エンジンのリモコン修理に行ったこともある。平成12年からはニイガタ原動機サービス株式会社へ出向となり、プラント施設の電気工事の責任者となった。

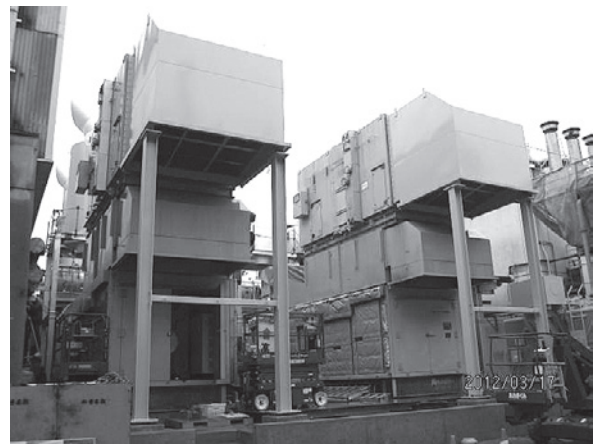
3. 発電設備の現場責任者として

平成15年からは新潟鐵工所の原動機事業を承継した新潟原動機株式会社の所属となった。発電施設の建設チームのリーダーとして、自家用・電気事業用含め25件以上の発電設備の施工・試験業務に携わった。最近携わった主な物件を次に紹介する。

- ・精密機器工場（福井県坂井市）
ガス機関駆動常用発電設備3,200kW×1基



新島村の常用発電設備



滋賀のガラス工場の常用発電設備

- ・製薬会社工場（静岡県藤枝市）
ガス機関駆動常用発電設備1,260kW×3基
 - ・電力会社発電所（東京都新島村）
ディーゼル機関駆動常用発電設備1,200kW×1基
- 「離島の発電所では敷地も狭くクレーンが使えないことが多い。ある島では25tのチェーンブロックを4個使用し発電装置の搬入工事を行いました。門型を組むだけで2日間かかりました。また、発電所では低圧での活線作業をよく行います。特に図面が無い中での活線作業は慎重を要します。」

現場で雪によるアクシデントも多々あった。滋賀のガラス工場での常用発電設備(ガスタービン駆動。4,210kW×2基)据付工事では、屋外設備であったが、一晩に70~80cm積雪してしまった。そのため納期が迫る中、除雪専門業者を手配し、据付工事を続行したこともあった。「雪には色々とお悩まされました。富山でも屋外設置のガス機関駆動でしたが、冬期の試験運転のため制御盤(12面)を囲うようにテントを貼って、毎日午前と午後に雪降ろしをしながら試運転調整を行いました。」

4. 後進の指導について



後進指導に内発協テキストを活用している苧部さん

現在、苧部さんには直属の部下が3名いる。「全て電気系の技術者です。会社からは『早く二代目(跡継ぎ)を作れ』と言われてます。」

技術指導についてお聞きした。「プラント建設の知識を基礎に、強電から弱電まで幅広く知識を得るようにと指導しております。エキスパートになれば技術の応用も効くのではないかと思います。ただ制御については、ハードシーケンスは指導出来ますけ

ど、ソフトシーケンス(プログラムを中心としたシーケンス)は、私も計装設計の担当からは10数年も離れており、さすがに難しいですね。」

建設現場では、安全教育の責任者として、協力会社も含めた作業員に対する安全指導を行っている。

「内発協の専門技術者講習テキストも教育資料として役立てております。朝礼等でテキストに掲載してある法改正の解説などを行っております。」

最後に、自家発業界に携わっている方々へ伝えたいこと、アドバイスについて話して頂いた。「我々の世代は色々なことを経験できたので今思えば幸せでした。苦労はあっても辞めたいとか、転職しようとか思ったことはありません。基本的に発電設備の仕事が好きなんですよね。忙しさで会社に1~2週間寝泊まりしたこともありましたが。」

間もなく還暦を迎える苧部さんだが、社内では「二代目候補」が育ちつつあるという。「心配だったら相談して欲しい。でも相談する前に努力して欲しい。一見厳しいようですが…」



数多くの現場経験や施工実績に裏打ちされた苧部さんのその言葉には、優しさと謙虚さの中にも、自信と気迫を感じた。